



泗水小だより

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 泗水小」

泗水小学校
学校だより No4
文責 芹川博文
5月12日(金)

↪ Creative
思い描く

↪ Active
やってみる

↪ Reflective
味わう



その1「思い描く」

上のCreative(思い描く)→Active(やってみる)→Reflective(味わう)は、学校教育目標を達成するためのグランドデザイン(裏面)

の一部です。「思い描く」「やってみる」「味わう」の3回シリーズで紹介させていただきます。

4月の職員会議で先生方に次のような話をしました。「先生方は1年後どんなご自身の姿を思い描きますか。どんな学級の姿を思い描きますか。どんなあの子(一人一人の子ども)の姿を思い描きますか。」教師だけではありません。子ども達も「〇〇ができるようになりたい」「こんな人になりたい」と思い描くことで目標ができ、進む方向(ベクトル)が定まってくるのだと思います。

子ども達の1年後の姿、小学校を卒業する時の姿、大人になった時の姿・・・思い描く中で本当に大事なこと「本質」が見えてくると考えます。

実際、この泗水小学校に赴任して、かつての教え子(の方)たちが、社会に出て働いたり保護者になったりしている姿を目の当たりにし、まるでタイムスリップした感覚になります。当たり前ではありませんが、「子どもは近未来の大人」です。将来の姿を思い描き、心して接していかなばと思われれます。

没頭する時間を大切にする

～ 3年生の理科の観察から ～

子どもの頃の遊びの一つは駒(こま)回しでした。コマがまっすぐに勢いよく回る時、まるで止まっているかのように見えることがあります。その状態を「眠る」と表現する地域もあります。私の育った地域では「澄む」と言いました。

そんな「澄んだ」状況の時、我を忘れて集中し没頭した時が、大きく成長するチャンスだと思っています。

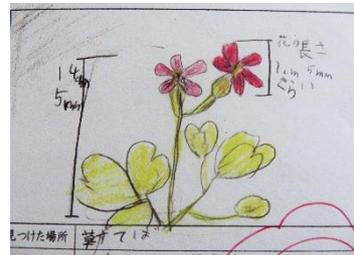
集中した時間の中で、新しいものを発見したり、これまで以上にこだわって質の高い作品を仕上げたりする、そんな達成感を味わえる学びを目指します。

3年生の理科の学習で自然観察をして描いた作品に目を惹かれました。理科室前の壁面に綺麗に掲示されています。右の絵はその中の作品です。

最近手にした本の次の言葉を紹介させていただきます。

「ひとたび、自分の力で素晴らしいものをつくり上げることができると知った子どもたちは変わります。自己イメージが変わり、自分の可能性をより感じられるようになるのです。そして、もっと良いものをつくりたいという気持ちが湧いてきます。一度そういった体験をすれば、そこそこの出来では満足できないハングリー精神を持つようになります。」(「子どもの誇りに灯をともし」ロン・バーガー著)

子ども達の成長のエネルギーは無限です。



リアルな体験的学習を追求 ～ 2年生国語の音読から ～

天気の良い日、外から子どもたちの元気な声が聞こえてきました。2年生が国語「風のゆうびん屋さん」を、ペアになってタブレットを使いながら音読していました。

気持ちの良い風が吹いて、鳥のさえずりが聞こえています。子ども達の集中した姿。「風のゆうびん屋さん」の自転車のベルの音も聞こえてきそうでした。



泗水小ほっこり話 ～ 地域の中で育つ子どもたち ～

「校長先生、嬉しい電話をいただきました！」満面の笑みで松永先生が報告されたお話を紹介させていただきます。

その方のお家に近所の3人の子どもたちが駆け込んだそうです。聞くと、排水口にボールが落ちたので助けてほしいとのこと。たまたま近くを通りかかった知人とボールを取ろうと試みたそうですが、どうしても取れなかったそうです。

あきらめて帰宅したその夜8時頃、子ども1人と父親が、昼間の出来事のお礼を言うために、家を訪ねてこられたそうです。

その方は、「子どもさんがきちんと家族に話をしたことや、わざわざ親子でお礼を言いに来られたことが嬉しかったので電話をしました。」とのことでした。

このお話を伺い、日頃のご家庭での会話や、ご近所との交流など想像し、何とも温かな気持ちになりました。

このような心豊かな地域の中で育つ子どもたちは幸せだと改めて感じたお話でした。